練習試合

5月の土・日曜日の朝になると、市内のいたるところに、練習試合に向かう自転車に乗った中学生集団に出会う。

最近、ヘルメットをかぶり、一行に行儀よく走る集団が多い。学校や部活動顧問の先生からの指導が行き渡っているのだろう。

多くが、元気よく楽しそうに走っている。

今、部活動が、教員の職務上の課題にあげられている。特に、大会直前は、週休日・休日返上で、先生方は練習試合に引率・指導して下さる。ここでは、そのことにふれないで進めさせていただく。

さて、練習試合の効果はいくつかあると実感している。

まず、競技力向上である。

自校の練習で身につけた技術を、会場・選手など環境のちがいにおいて活用することができる。実力を身につけているのに、大会で負けることがある。いかに日常と異なった準備ができているかである。また、他チームの技術や作戦を見ることができ、自分の競技力向上に結びつくのである。

次に、チームワーク向上である。

先輩や仲間を応援し、一体感を持つことができる。大会会場でもチーム全体で応援することができるような態勢を整えることができる。

最後にマナー向上である。

学校で学んだことを社会に出て実践する場である。先生による事前指導のもと、交通・あいさつ・態度（大声を出さない、ゴミを持ち帰るなど）に関するマナーを社会で実行することができるかどうかである。

訪問先の学校がきれいで、生徒があいさつ上手であれば、自分たちと比較して、がんばらなくてはならないと思うだろうし、仮に訪問先の学校がその逆の状態であれば、自分たちの行動に誇りを持つこともできるだろう。

かつて、自校に課題が多かった時、練習試合を多く設定した。それも相手を迎えるのではなく、他校へ出向いたものだ。そして、生徒に対し、競技力を含め様々なことに「がんばろう！」と話したものだ。顧問の先生、休日にも関わらず食事の準備をしてくれた保護者、多くの支援で練習試合が成り立っている。生徒たちには競技力だけでなく良い成果が出ることを願っている。